

2025年（令和7年）大発会理事長挨拶

2025年1月6日

皆様、新年明けましておめでとうございます。

皆様におかれては、ご家族共々、健やかに新年を迎えられたことと拝察しており、心よりお慶びを申し上げます。

また昨年は、皆様方にひとかたならぬお世話になり、改めまして、深く御礼を申し上げます。

本年もどうぞよろしくお願いを申し上げます。

新年の何かとお忙しい中、早朝より皆様には多数のご出席を賜りまして、誠にありがとう



「年始挨拶」石井理事長

ございます。また美しい晴れ着姿でご参加の証券レディの皆様には、この大発会に今年も花を添えていただき心より感謝を申し上げます。

さて、2025年は「昭和100年」、「戦後80年」の節目の年でございます。世界中で「保護主義」が台頭し、混迷の度合いが深まることを指摘されておりますが、戦後幾多の困難を乗り越えてきた、様々な優れた英知を結集し、寛容さをもって、この波を乗り越えていくことを期待しているところです。

また近年、様々な分野で、変化のスピードが速まっています。今年も、過去の延長上に無い「新たな変革」の波に直面することになると思われますが、先見性と決断力をもって、この波を乗り越えてゆくことが必要だと思っております。

私共 札幌証券取引所も、今年は「新たな変革」の波のスタートラインに立つ年になると思っております。ご承知の通り、北海道・札幌が昨年「金融・資産運用特区」



「手締め」
日本証券業協会北海道地区協会
伊藤会長

に指定されまして、新たに国際金融都市を目指すうえで「グローバル・スタンダード」を視野に入れた、様々な情報発信機能の強化や、多彩な業務展開に取り組んでいかなければならないと考えております。今後とも、Team Sapporo-Hokkaido と連携を密にしながら、これらに取り組んで行く所存であります。

また一方で、地方の証券取引所として、地域経済の発展に資する様々な機能の強化にも取り組んでいかなければならないと思っております。明治以降、最大の官民投資が行われようとしている、この大きな歴史的な変革のなかで、北海道の企業の多くが「成長スパイラル」に結びつくような、様々な支援を多角的に行っていきたいと思っております。

また私共の本業であります「投資家保護」の観点からも、上場会社の経営者の皆さんと、投資家の皆さんとの中長期的な視点で、企業価値向上に向けた「建設的な対話（エンゲージメント）」を積極的に展開していく、あるいはご支援をしていく、このように考えておりますので、どうぞ皆様のご支援と、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

さて、大発会恒例の本年の「打鐘式」に、長野オリンピックの金メダリスト、そして昨年、全日本スキー連盟の会長にご就任されました、原田様をお招きしております。さきほどお伺いしましたところ、全日本スキー連盟の会長に、選手として、あるいはコーチとしてご就任するのは初めて、とのことでございます。

この打鐘は、東証におきまして、立会開始の合図として鐘を鳴らすのがはじまりだそうでございますが、その後、新規上場のセレモニーの定番として、今日に至っております。

今日は、原田様の打つ鐘の音が、本日ご列席の皆様の新たな飛躍のスタート台に立つ、合図になればと思っております。

原田様どうぞよろしくお願い申し上げます。

結びになりますが、本日ご列席の皆様の今年一年のご多幸と、皆様方の会社・団体様の一層のご隆盛を祈念申し上げまして、新年の挨拶とさせていただきます。

本日はご出席 誠にありがとうございました。



札証の鐘「打鐘」

「スポーツを通して北海道の経済に少しでも貢献できるように頑張ってお参りますので、応援いただきますようよろしくお願いいたします。」

北海道スキー連盟、全日本スキー連盟
原田雅彦 会長